

ディスカッション・トピックス (2025-06-18) : MNC は敵か味方か

2つの動画(特に1本目「多国籍企業をめぐる国際政治経済学の諸視点」)で学んだように、多国籍企業(MNC)と国家の関係には様々なパターンがあります。

たとえば、本国は先進国か途上国か、ホスト国は先進国か途上国か、FDIの目的は垂直的統合か水平的統合か資源へのアクセスか、FDIの方法はグリーン・フィールド投資かM&A投資か、といった違いから複数の組み合わせが考えられます。そして、それらの中から特定の組み合わせを前提として、MNCの功罪(国家への好影響・悪影響)を論じる様々な理論やモデルがこれまで提起されてきました。また、時代とともに主要な組み合わせパターンが変わったため、理論やモデルの有効性も時代とともに変わったと考えられます。

では、現代におけるMNCと国家の関係を考える場合、どのようなパターンを前提として、MNCのどのような影響について考えることが重要でしょうか。

- ・なるべく具体的に国・地域、企業・産業を挙げて問題提起してください。
- ・次のような視点が考えられます。
 - 政治的影響(規制回避、ロビー活動など)
 - 経済的影響(雇用、産業育成、技術流出など)
 - 社会・環境的影響(労働条件、環境破壊、CSRなど)
 - 長期的 vs 短期的影響

例:半導体のグローバル・サプライチェーンにおいて、今や、アメリカからアジアへの投資よりも、台湾(半導体大手TSMC)からアメリカへの投資が顕著となっている。これはアメリカの技術的な覇権にとってプラスなのかマイナスなのか。